

さわやかトカラ情報

一隅を照らす十島の教育

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771

E-mail toshima-ky@tokara.jp

一月・・・初日さす

十島村教育長 原口 英典

新年明けましておめでとうございます。

今年も、私たちの身の上にも、新しい年が分け隔てなく訪ねてきてくれた。しかしながら、国内的にも、国際的にも、手放して新年を喜べる状況でないことは、誰もが実感しているところでもある。それでも、私たちは、いつものごとく、新しい年に希望を求め、日々の努力の向こうには、きっと何かよいことがあることを信じて。

新採の頃、友人からの年賀状に、石川啄木の歌が書き写されていた。

何となく、
今年はいい事あるごとし。
元日の朝、晴れて風無し。

友人は、学生時代からの夢であった新聞記者をしていた。記者の目に映る世情に思いを馳せるに、希望を求め、今年こそはという切なる祈りの一筆であったのだろう。

ところで、何を祈るかは別に、自（おの）ずと祈りの心が湧き上がるのが、新年の夜明けなのではあるまいか。今の私の祈りの一つは、本村の中学生5人が島を出て初めて受験する志望校の合格である。児童生徒の人数が少ない、学級数が少ないというだけで、個別指導が行き届くとはいえず、定数法のもと、教えてくれる先生方の数が、教科数に比して必ずしも十分とは言えない十島の学校教育の現実。

とりわけ、中学生にあっては、島内に高校がない中で15歳にして島を離れ、島外の高校や社会での生活を余儀なくされる現実。受験は平等だというのが、明らかに前提条件が違う中での公平の要求は、保護者にとってその不安は計り知れないものがあるという。もちろん「置かれた場所」で、精一杯尽力している子どもたち、そして先生方。故郷に誇りを持つ保護者。

その頑張っている子どもたちや先生方に、そして保護者の方に、もっと当てられてよい「光」で、当てられていない「光」があるのではないか。声高でない、島からの静かなる呻きにも似た熱望の声に心耳を澄まし続け、「光」を当てていく、半歩前進の意志をもって今年を共に歩みたい。

初風（はつなぎ）や波の運びし貝光る（池野美佐子）

【新成人を祝う会：「新たな道を一歩ずつ」】



今年の十島村「新成人を祝う会」は、9人の新成人を祝福すべく、成人の日（1月14日）に役場内で、肥後村長以下多くの職員、中学時代の恩師・家族・里親等の出席を得て、催されました。式に出席いただいた6人は、それぞれ成人の抱負や支えてくれた方々への感謝の思いを述べ、最後に有川真奈美さんが、代表して「次代の明るい日本を担う存在として成長しつつ、人と人との絆を大切に、新たな道を一歩一歩進んでいきたい」と謝辞を述べました。確かな島の教育の足音が聞こえてくる思いでした。

出席者：左より

別府真倫さん（口之島）浅野 晃さん（中之島）
日高成陽さん（中之島）有川真奈美さん（悪石島）
滝本 涉さん（小宝島）小室光仙さん（宝島）

式典の中で肥後村長は、「壁にぶつかった時は島を思い出して。いつの日か帰り、村の担い手になってほしい」原口教育長は、「十島での学びを誇りに、一道を行く生き方を貫いてほしい」と出席者及び出席がかなわなかった新成人にも呼びかけました。また、トカラふるさと会の日高会長は、「島民出身者・友好島民でつくるこの会への若い息吹を」と、加入を呼びかけ、島づくりに共に手を携えていこうと祝辞を寄せられました。

この様子は、遠く離れた各島々にも、テレビ会議システムを通じて流され、小・中学生は、凜々しく成長した先輩の姿に敬意の念を抱いて見つめていたといえます。

新成人と中学生生活を共にされた御出席の恩師の方々。恩師の方々の語るお祝いの言葉は、まぎれもない彼らとの固い絆から紡ぎだされた思い出の言葉でした。

出席いただいた恩師の方々は、次の先生方でした。

<（ ）内は、現在校>

口之島：富松紀子先生（谷山中）別府 浩先生（佐多小）
中之島：塩屋親徳先生（川床中）関山 均先生（亀山小）

悪石島：藤井浩幸先生（東市来中）土岐邦寿先生（鶴川内中）加治佐敏昭先生（城川内小）
小宝島：岩下雅子先生（小宝島中）郡山正一郎先生（薩摩中）
宝 島：松山アリ先生（伊敷中）本田 聡先生（山田中）
島に一燈を照らした教育活動と教え子への温かい祝福に対し、感謝申し上げます。

【絆】 シリーズ 山海留学生として学ぶ

宝島での6か月を振り返って その3（12月号に続く）
立尾 陸 現在中3年生<熊本市>（宝島中2年生時）

～また、手話を教えてもらいました。児童生徒朝会では3人での発表もしました。初めての手話は難しかったのですが、手話は、言葉の意味を考えるのに良いそうです。手つきは心を込めて、話しかけるように表現するのが難しかったです。これは、好評だったようで社会学級でも発表しました。他にも、みんな物語を読んであげたり、折り紙を折ってあげたり、熊本では絶対経験できなかったようなことをたくさんしました。先生から「優しい気持ちになれるよ」と言われた意味が分かったような気がしています。

宝島に来るまでは、学校生活で人に頼られたり、人のために何かをしたりすることはありませんでしたから最初は、大変だと感じながらでしたが、頼りにされた分頑張れたことは、気持ちよく、良い体験になりました。

宝島での学校生活や里親さんの所での生活で印象に残っていることを書きます。給食の手作りパンは美味しいでした。また、ランチルームで食べる雰囲気も良かったです。昼休みは、小中学生と一緒に遊んだり、よく体育館でバスケットをしたりしました。思う存分体育館を使えてよかったです。学校の先生は、熊本では嫌な存在でしたが、宝島に来てからは先生方といっぱい話をし、一緒に過ごす時間が多く、学校生活が本当に楽しい毎日でした。

里親さんの所では、海に連れて行って下さったり、何時も美味しいご飯を作って下さったりしました。基本的な生活習慣が身につくおらず、規則正しい生活に慣れなくて、叱られたりして、正直嫌だと思ったこともありましたが、それは僕たちのことを思って言って下さったのだと、今は思います。自分の子供のように温かく、厳しく、何時も見守って下さってありがとうございました。

これからは、宝島での思い出や経験を生かして、熊本に帰ってからも、素直な心を忘れずに生活していけたらと思います。（完）

【子どもたちの作品】 南日本新聞「若い目」 <H24.11.15>より

練習の成果発揮
宝島小学校小宝島分校 6年生 森 祐太

「うわぁ、ドキドキする」。文化祭当日、ぼくはとてもきん張っていました。ぼくにはたくさんの出番があり、たくさん覚えることがあったのです。はじめの言葉、合唱・合奏、小学生の劇、小中合同のダンス、平和についてのスピーチ、剣道の形、そして各演目の紹介・・・。

特に剣道の形がとても心配で、何度もイメージトレーニングをしました。

本番直前、お客さんが集まり、ぼくのドキドキも大きくなりました。そして、文化祭の始まり。小学生のはじめの

言葉「あたり前体操」は、お客さんに笑ってもらえてうれしかったです。

次に、児童生徒全員の合唱「TOMORROW」と、「風になりたい」の演奏。さらに、ぼくの出番の「平和」についてのスピーチ。これは、ぼく一人だけの発表だったので少しきん張りました。

ピアノ発表や小学校の劇など楽しい演目が過ぎ、そして、小中合同のダンス。かっこよかったねと言われ、とてもうれしかったです。最後の剣道は心配だったけれど、本番が一番よくできました。最初はきん張っていた文化祭があったという間に終わりました。

運動会から1か月ほどの練習でしたが、自分でもいい発表ができたので満足でした。練習の成果を十分に発揮できた文化祭でした。

【入賞おめでとうございます】

第56回JA共済小・中学生書道コンクール

半紙の部

佳作 羽生 偉琉（中之島小2年）

「チャレンジがごしま」ランキング

種目【一輪車でGO!】

6位 小宝島分校

十島村の小・中学校からのメッセージ

宝島小・中学校

教諭 下里 美保子

「教育に離島があってはならない」という言葉に初任者のときに出会い、今回縁あって宝島に赴任し、教師として、人として、学ぶ機会を得たことを心から感謝しています。

自分の教育の方向性を模索していた時期、宝島での学校の存在意義について、島の方々にお尋ねしたことがあります。そのとき、学校教育だけでなく、島の核としての存在や、社会教育の充実が求められている現実に触れました。

「島が寂れないために、影響力が大きい」「島民の明るさや文化の中心として必要不可欠」などの声を多くいただき、この島の教育で大切なのは、まず島を知ること、そして島の一員として生きる目線そのものだど気付かされました。また「先生方には長い期間赴任し、長い目で子どもたちの成長を見守ってほしい」という声も心に残りました。私たちがいつかこの島を離れたとしても、教育に携わった思いは必ず残り、子どもたちの成長に息づいていきます。

だからこそ、子どもたちの可能性を最大限に引き出し、時間をかけて向き合い、丁寧に次の先生方へ引き継ぐ大切さを感じます。「一人一人の子どもを大切に」という教師の原点を、改めて見つめ直せる環境がここにあります。児童生徒の数で教育の困難さは計れません。地域との連携や児童生徒の心に寄り添う気持ちは勿論、これまでの経験や価値観、指導法に留まらず研鑽を重ね、十島村での教師の使命を全うするため、日々努力していきたいと思えます。教職員仲間である「あなた」へのメッセージ

十島村の皆さんは、学校の存在や子どもたちを、宝のように大切に思っています。だからこそ、この期待の大きさに応えられる並々ならぬ覚悟や努力、教師としての熱意や日々の創意工夫がないと、地域と意識の格差が生じてしまうことを肝に銘じる必要があると思えます。

十島村は「地域の期待に応えることのできる幅広い力量を持った教師」を目指している方には最高の場所です。